

水の輪

▼「3.11後」を隠蔽するかのように「2020東京五輪前」が演出されている。原発事故から命と健康と暮らしを守る「チェルノブイリ法日本版の条例制定」を求める運動は、地域から中央への反乱、アベノミクスに負けているわけにはいかないのである。流域の住民参加と地域の特性による河川の復権を求める運動、住民の知恵と経験を活かした豪雨災害対策、護岸対策等、地域自立をめざす運動の意思とビジョンに未来の予兆を探ろう。(石橋 浩治)

▼3・11以来の“放射能汚染列島”に、今夏は各地で台風や豪雨による水害が頻発。愛媛県肱川の洪水ではダムの緊急放流が主因とみられ、ダムの有効性や運用方法が争点になり、



治水・利水の「大義」が揺らぐ。約2,890の既存ダムの多くが自然や人間のいのちまでも奪う「川の墓」と化した中で、長崎県「石木ダム」のようなダム乱開発(上掲写真は映画「ほとるの川のまもりびと」山田英治監督のシーン。配給☎03-6379-3938)がつづく。葬るべきは、「公権力の愚行」である。(矢間 秀次郎)

▼8月12日、私は浪江町に向かいました。現職のまま死去された馬場有(ばば・たもつ)町長の「偲ぶ会」に参列するために。上野から乗ったJR常磐線は富岡までで、そこからは代行バスで帰還困難区域を走り抜けます。「窓を開けないように」と乗務員の声。その窓の外に広がる「死のまち」の姿は、3・11後に生きる私の覚悟を改めて問うのでした。▼本号はミズコシ印刷で6,300部印刷、次号は来年2月発行の予定。(佐藤 和雄)



若狭にある。沖縄県那覇市「不屈館」が示した資料館足跡を辿り展

多い。昨年映画「米軍が最も恐れた」の世を去った。亀次郎の不屈の闘いに共感する人は

HP: <http://senaga-kamejiro.com>
 *次号は「女たちの戦争と平和資料館」(新宿区西早稲田2-3-18)の予定。

戦後、米軍政による蛮行がまかり通っている中で常に抵抗の現場にいた。彼の足跡を辿り展示した資料館

水系博物館・美術館めぐり④
不屈館
 瀬長亀次郎と民衆資料館
 崎山 正美
 (沖縄玉水ネットワーク)

亀次郎は七高(現鹿児島大学)に入学生も社会主義運動に加わったとして退校処分を遭う。1947年沖縄人民党創立大会で中央委員。1952第1回立法院議員選挙で当選。1954年米軍は人民党の弱体化と亀次郎の追放を目論んで逮捕、投獄し議員の資格をなく奪。1956年出獄後、那覇市長に当選したもの、1957年に米軍は布令で那覇市長の座と被選挙権をなく奪。しかし、1968年の立法院選挙では最高位で当選。1970年の国政選挙で衆議院議員に当選。1990年に勇退し、2001年94歳

男その名はカメジローが全国で公開された。辺野古新基地建設闘争の現場では「不屈」と名付けられた船が辺野古の海を走っている。沖縄の戦後史、民主主義の在り方に関心のある方なら一度は訪ねておくべき資料館である。上掲写真は館長・内村千尋さん。

●開館時間 午前10時〜午後5時
 休館日 毎週火曜日・年末年始。詳細は電話で問い合わせ。
 所在地 那覇市若狭2丁目21-5。
 ☎098-943-8374。
 FAX 098-943-8375。
 Email: info@senaga-kamejiro.com
 HP: <http://senaga-kamejiro.com>

河川工学者三代は川をどう見てきたのか

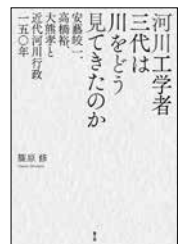
安藝皎一、高橋裕、大熊孝と近代河川行政一五〇年

篠原修 [著]

河川工学者三代の生涯を描くことを通じて近代河川行政の到達点と課題を明らかにし、環境・景観・自治の河川を展望する。

●本書を推薦します!

哲学者 内山節……人間は川を通じて自然と結ばれ、それぞれの世界をつくってきた。川のあり方からこれからの社会を考える絶好のテキスト。
 建築家・東京大学名誉教授 内藤 廣……河川に捧げた碩学三代の生き様と叡智を篠原修の名文で読み解く。土木・都市・建築、すべての人に読んでほしい。



448頁、3500円+税